

Injury Alert (傷害速報)類似事例

No.3, No.11 スーパーボールによる窒息の類似事例 3

事例	年齢：4歳5か月 性別：男児 体重：19kg 身長：102cm
傷害の種類	窒息
原因対象物	ガムボール（スーパーマーケットの小型自動販売機で購入した、直径約25mmの硬い球形のガム、図1）
臨床診断名	窒息、急性肺損傷(陰圧性肺水腫)、誤嚥性肺炎
医療費	500,650円
発生状況	発生年月日・時刻 2018年6月X日（火） 午後6時10分
	発生時の詳しい様子と経緯 本児は、上記時刻に母とスーパーマーケットのエレベーターに乗った後、エレベーター内でガムボール（図1）を口にいれ、飛び跳ねていた。エレベーターから降りようとした際に突然本児の動きが止まり、息苦しうにもがき始めた。母は、本児がガムボールにより窒息したと考え、すぐに背部叩打を行なったがガムボールは排出されず、本児はそのまま意識消失した。すぐに母が周囲に助けを求め胸骨圧迫を開始した。1分後に再度背部叩打したところ、異物が排出された。本児は呼吸を再開し、意識も回復した。救急隊現着時、JCS（Japan Coma Scale）I-3、体温37.5℃、呼吸数32回/分、脈拍数120/min、血圧125/83mmHg、SpO ₂ 88%(room air)であった。医療機関へ救急搬送された。尚、すぐにつけつけた介助者のうち1人が医療関係者であり、脈の触知は確認されていたとのことであった。
治療経過と予後	病院到着時、JCS I-1、体温36.8℃、呼吸数28回/分、脈拍数113/min、血圧106/57mmHg、SpO ₂ 100%(O ₂ 6L/min)であった。顔面の溢血斑は認めなかったが、多呼吸と低酸素血症があり、両肺野にcrackleを聴取した。胸部X線写真（図2）で両側肺野にびまん性の浸潤影を認め、窒息に伴う急性肺損傷（陰圧性肺水腫）と診断した。入院翌日に撮影した胸部CT検査（図3）でも肺挫傷の所見は認めず、肺水腫に矛盾しない所見であった。呼吸障害の程度は軽く、High-flow nasal cannulaでの管理を計4日間行い、呼吸状態は安定した。誤嚥性肺炎も併発していると考えられ、抗菌薬も併用し、1週間で退院した。退院時点で特に後遺症は認めていない。



図 1. 本事例の原因となったものと同じ大きさ、形のガムボール

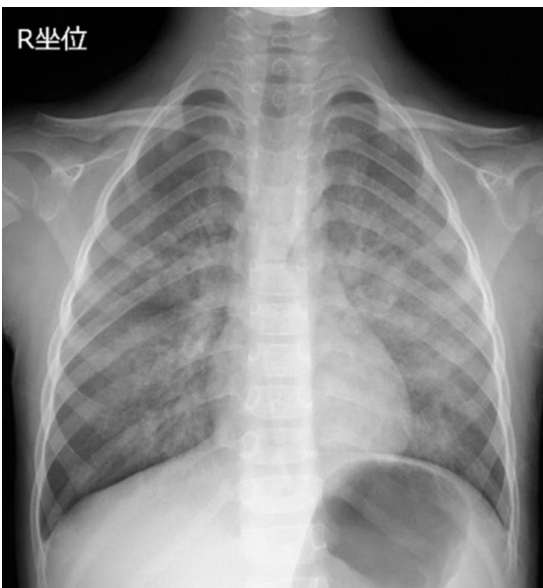


図 2. 受診時の胸部 X 線写真。両側肺野にびまん性の浸潤影を認める。

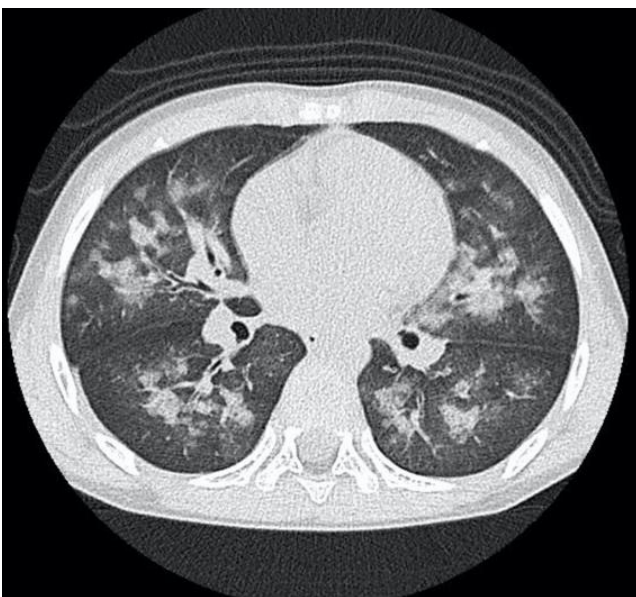


図 3. 入院 2 日目の胸部 CT 検査。両側肺野にびまん性の浸潤影を認める。